

地震時 食料支援は

AMD Aがシンポ

連携農家ら30人参加

南海トラフ地震発生時の食料支援をテーマにした国際医療ボランティアAMD A（岡山市北区伊福町）主催のシンポジウムが5日、岡山市内で行われ、被災地に食料を届けるためAMD Aと連携する



南海トラフ地震発生時の食料支援について考えたシンポジウム

県内の農家ら約30人が意見を交わした。AMD Aグループの菅波茂代表が基調講演

し、地震時に甚大な被害が予想される高知、徳島県内に支援チームを派遣する独自プロ

グラムを紹介。現地の避難所では4〜8週間、医療や食料の支援を続ける計画を説明した。

続いて支援を受ける側の立場に立った意見交換があり「何より白米が必要」「物が1カ所に過剰に集まらないよう必要量を伝える」といった指摘が出た。支援に向けた備えとしては「必要な食料がすぐに拠出できるように、周囲の農家にも備蓄を呼び掛けている」との報告もあった。

AMD Aによると、県内の農家ら59の団体・個人を「支援農場」に認定し、災害時の食料支援体制を整備している。（水嶋佑香）